

住みよいまちづくり情報誌

Vol.40

平成27年9月1日

発行 住みよいまちづくり新莊会
 (水戸市新莊市民センター内)
 (〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
 Tel.029-221-7851
 責任者 住みよいまちづくり新莊会
 会長 川又 一郎
 編集 新莊会広報部
 印刷 常磐総合印刷株式会社
 題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 3,079

男 2,929 女 3,231 合計 6,160 (平成27年8月1日現在)

年齢別人口

0 ~ 14 才 543 (8.8%)

15 ~ 64 才 3,606 (58.5%)

65 才以上 2,011 (32.7%)

(平成27年8月1日現在)



一年生紹介

7月26日(日)、新莊小学校校庭で開催された新莊夏まつりは、7月では2番目の猛暑日(最高34.6度、16時33度、18時31度)となりました。

猛暑の中、開会式典、模擬店、ゲームコーナー並びに管楽合奏、サッカー、チア・ダンス、よさこい連、民謡、歌謡ショー、プチハモなどの催しが時間いっぱい行われ、2,300人も参加者が汗をかきながら和気あいあいと夏まつりを楽しみ、親睦を図ることができました。



意気の合った水商チア・ダンス



来賓の皆様



勇壮な水戸城東YOSAKOI連

猛暑の中、汗まみれで会場設営を行う係員



大いに賑わう観客



新莊小学校管楽合奏部



水商サッカー部指導によるゴールキック



懐かしいわたあめ



スーパーボールすくい



高齢者対子供 オセロゲーム



フィナーレの花火



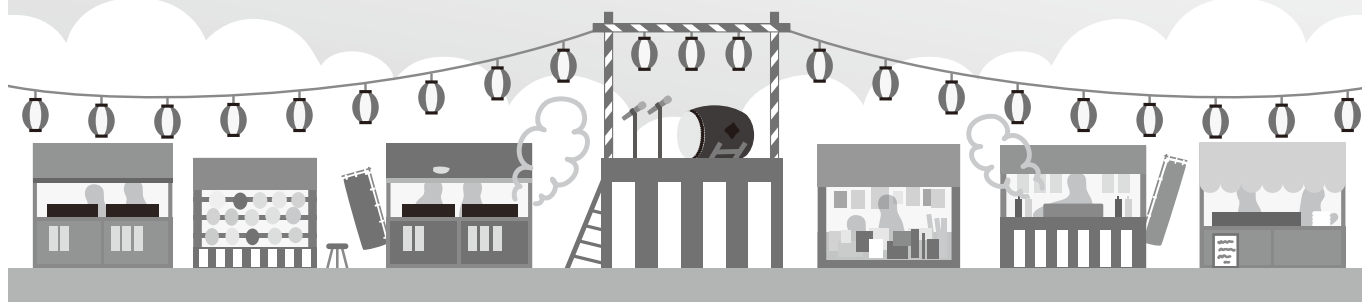
バザー 光る指輪



歌手金沢はるみ先生とはまゆう会のコラボ



参加者の心を和ませてくれたブチハモ



平成二十七年 合同総会

五月十六日(土) 新莊市民センターで、住みよいまちづくり新莊会と社会福祉協議会新莊支部の合同総会が開催されました。



高橋市長あいさつ

新莊地区六十九町内会のうち、六十六町内会長の出席をいただき、二十六年度の事業報告と決算報告及び二十七年の事業報告と予算が承認されました。役員は社会福祉協議会新莊支部の改選がありました。

開会のあと、市民憲章唱和、水戸市歌斉唱、川又会長主催者あいさつに続き、来賓として高橋市長などよりごあいさつをいただきました。

また、今回は、合同総会後の特別講演として、茨城キリスト教大学講師 久信田喜一先生に「新屋敷の歴史」について八十七名の参加者を得て大変興味深いご講話を頂きました。

社会福祉協議会新莊支部の新役員は次のとおりです

〔支部長〕 青木 實

〔副支部長〕

奥田 俊裕、袴塚 禮子

大内 三平

〔理事〕

仙波 正之、渡辺 淑子

近澤 博子、大谷 廣子

阿野 昭子、武石加津子

笹島 隆治、塩井 雅子

三田部しげ子、藤田 久子

中沢 英子、志賀 忠勝

小林 邦子、坂場ノリ子

〔会計〕

飛田美江子、高木ひろ子

〔監事〕

根本 憲一、湊 弘一郎



住みよいまちづくり新莊会総会審議の様子

〔采 實〕

水戸市長 高橋 靖様

水戸市議会議員 袴塚 孝雄様

水戸市社会福祉協議会 事務局長 井上 利昭様

新莊市民センター 所長 高林 誠也様

女性会 支部長紹介



女性会 支部長紹介

今年度の主な行事

▼新莊夏まつり 七月二十六日 回

▼敬老会 九月二十一日 回

▼市民運動会 十月十一日 回

▼歩く会 十一月八日 回

▼ふれあいまつり 三月六日 回

◆新屋敷の歴史

ご講演「新屋敷の歴史」の中から、新屋敷の由来など、一部を紹介します。

現在の新莊一〜三丁目、末広町一丁目、栄町一・二丁目は江戸後期、新屋敷と呼ばれた地域で、昭和四三年まで当時の花の小路名が町名となっておりました。

この土地は、古くは中山備州の別荘地だった原野で開発して新田と成し、後に中山氏に寛文六年(二六六六)水戸藩から与えられました。その後、天保年間(一八三〇〜一八四四)になり新たに開いて家臣の宅地としたことから、新屋敷と名付けました。土地を九小路に分け、そのうち、梅、松、楓、柳、花、桜、常磐の七小路は居住の町となりました。小路の名称は、目印に植えられた樹木から付けられました。

齊昭公は財政問題打開のため天保七年(一八三七)、江戸在勤二五〇〇人余のうち二〇〇余人を新屋敷に移し、七小路に住ませました。この時の屋敷数三軒でした。



特別講演 久信田 喜一先生

新屋敷に住んだ著名人には、彰考館総裁の豊田彦次郎、安政の大獄で死罪となった鶴飼吉左衛門、本草学者の佐藤平三郎、尊攘運動の中心人物となった金子孫二郎、桜田門外の変を指揮した関鉄之介などがおりました。

新屋敷は、明治二二年、各小路名が水戸市の町名になり、昭和四三年、現在の町名に変更になりました。

各小路の現在の場所は、柳・柏小路は水戸商高、楓・柳・桃・桐の四小路にまたがって新莊小学校、常磐小路は常磐大学高校などとなっております。

私たちの住む町が、歴史に深い関わりがあったことに驚くばかりです。詳細は、久信田先生の講話資料をご覧ください。

徳池山蓮生院信願寺

第二十六代住職 幡谷 唯深

ゆいじん



信願寺の本堂

今回は、緑町にある信願寺を紹介します。信願寺は、親鸞聖人を始祖とする浄土真宗本願寺派の寺で、徳池山蓮生院と号しています。創建は貞永元年（一二三二年）で、開基は親鸞聖人の弟子の唯信房で、弟子二四輩の内の二三番目です。

唯信房は、もと橋村幡谷城主（旧小川町）だった人物で当時は幡谷次郎信勝と名乗り日頃

たちばなむら

から観音菩薩を信仰していました。建保四年（一二二六）、信勝の霊夢に観音菩薩の化身が立ち、その御告げにより、鹿嶋神宮に参拝のため幡谷村を訪れた親鸞一行を城に招き入れ弟子となり唯信という法名を授かったと云われています。寺は開山当時は幡谷にありましたが、何度か移転を繰り返して、慶長十年（一六〇五年）には水戸城西（信願寺町跡）に移転し、さらに延宝九年（一六八一年）、火災に遭ったのを機に、光圀公の命により、黄金若干並びに鞍馬八十頭を賜って、現在の地に落ち着いたとされています。

信願寺のかつての扁額は中国からきた心越禅師の筆によるものであるといえます。また、かつて光圀公が植えた桜も境内にありましたが、今はありません。幕末になって住職が諸生派に味方したため莊嚴な堂宇を天狗党に焼かれてしまつて、諸記録も消失しましたが、寺宝だけはほかに移されて火難を逃れました。しかし、このため寺は廃寺になりましたが、明治十年頃再興が許されました。現在の堂宇は、大正十一年に建てられたのですが、先の



親鸞聖人妻子三体像

東日本大震災により被害を受け、現在、新しい本堂の建設を予定しています。

本尊は、阿弥陀如来像で県指定の文化財になっており、この仏像は鍍金仏で鎌倉時代の作といえます。

境内には、本堂、庫裡、中門（修復予定）、鐘楼、宝物殿があります。

また、本堂の前には、昭和五十四年（一九七九年）、全国初の親鸞聖人妻子三休像が建立されました。親鸞聖人が越後から常陸にこられた時の旅姿で、作者は渡辺卓熙氏、台座には高下恵氏の親鸞讃歌「野のひじり」が銅版に浮き彫りにされています。

花壇コンクール

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が主催する花だんコンクールが七月十四日（火）から十六日（木）の三日間実施され、二百七十六花壇中五十四花壇が入賞しました。新莊地区からは、

町内会の部において砂久保花の会が優良賞に、職域の部において吉田石油水戸SSが優秀賞に、それぞれ輝きました。

表彰式は八月二十七日（木）、県立青少年会館において行われました。



吉田石油水戸SS



砂久保花の会

編集部委員

田口允彦・中野昌子・塩井雅子・川又健志